



# 精神科デイケアおよび訪問支援統合化 プログラムの開発とその評価

大山 早紀子

(福祉学科教員)

## 1. 背景と目的

本研究の目的は、重い精神障がいのある人が地域で孤立することなく主体的な生活を継続するための精神科デイケア（以下、デイケア）と訪問支援を統合した地域ケアモデルを構築し、般化可能性を検証することである。

精神障がいのある人の支援は「入院医療中心から地域生活中心へ」と精神保健医療福祉サービスの転換という国の基本方針に基づいて、病院から地域へと移行しつつある。

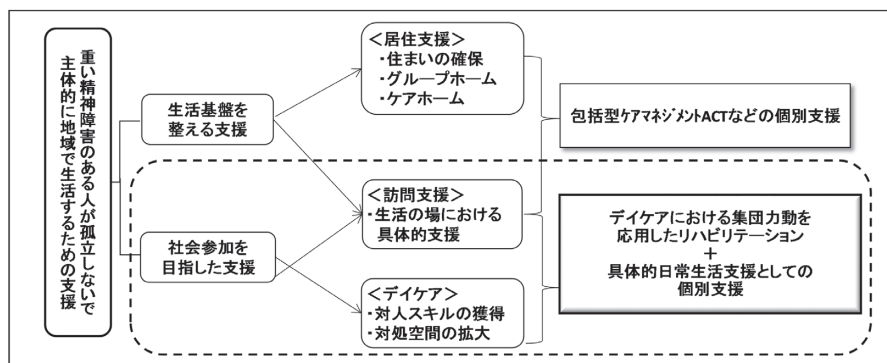
これまでの地域精神科医療は、デイケアがその中心的役割を担ってきた。しかし、デイケアの効果が明確ではないとして、その縮小が起きている（辻，2009：Hoge,M.A.ほか，1992：National Institute for Clinical Excellence：2003，2004）。欧米ではデイケアが衰退化していく中で、それに代わって科学的根拠に基づく訪問支援を主体とした包括型ケアマネジメント（Assertive Community Treatment, 以下、ACT）が発展した。このような中で、日本においてもデイケアの役割の見直しが行われており、今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会（厚生労働省，2009）では「デイケアが今後、地域医療の中でより有効に機能するためには、多様な利用形態にあるデイケアの機能を、患者の症状やニーズに応じて機能を強化・分化し、役割の明確化を図ることが必要」と指摘されている。

しかし、我が国では、ACT を始めとした訪問支援に大きな発展は見られず、精神障がいのある人の地域移行の支援の要にはなり得ていないと考えられる。そして地域移行の推進と有効な地域生活継続支援のあり方が模索されている。このような中、重い精神障がいがあるために地域移行と地域生活の維持・継続に大きな困難をもつ人への訪問支援等の提供方法に関心が集められている（窪田，2006）。そのため既存の社会資源にアクセスすることが困難な人は、それらのサービスの恩恵を受けることができない状態にある。

これまで精神障がいのある人の地域移行・地域定着に大きな役割を果たしてきたデイケアが本来求められている役割を果たし、地域医療の中でより有効に機能していくためには、多様な利用形態にあるデイケアの機能や役割を明確にすることが重要であると考え。そして、必要に応じて訪問看護、地域活動支援センターなどと連携し、訪問支援を併せて精神障がいのある人の地域生活の定着を図ることを目的とした支援体制の確立が必要と考える【図1、破線部分】。

そこで現在の研究では、こうした背景を踏まえ、重い精神障がいのある人が地域で孤立することなく主体的に生活をしていくために求められるデイケアと訪問支援を統合した支援体制を明らかにし、実践家とのワークショップを通じて、合意の得られる実効性の高い効果的な支援モデルの構築を行っている。併せて、デイケアと訪問支援を統合した支援を体系的に実践していくために必要な支援要素を明らかにしている。

今後は、それらのモデルが、どの程度実践の中で有効か、評価介入研究を行っていく予定である。



【図1 重い精神障害のある人の地域生活定着・継続支援に求められるもの】

## 2. 研究業績

### 1) 原著論文

- ・大山早紀子、大島巖、(2013) 家族会による精神障害のあるひきこもりがちな人への支援活動（「窓の会」活動）の成果と課題～ A 政令市家族会全数調査に基づく活動へのニーズ調査の分析から～：日本病院地域精神医学 第55巻 3号.
- ・大山早紀子、大島巖、(2015) 精神障害のある人が孤立することなく地域での生活を継続するための精神科デイケアと訪問支援を統合した地域ケアモデルの開発の可能性：ソーシャルワーク学会誌 第30号.

## 2) 学会発表

- ・大山早紀子、大島巖、木村尚美, 2014.「精神科デイケアと訪問支援を統合した支援に必要な要素－重い精神障害のある人が孤立せず主体的な地域生活を継続するために－」第57回病院・地域精神医学会.
- ・大山早紀子、大島巖、源由理子他, 2014.「効果的プログラムモデル形成のための実践家参画型評価アプローチ法の開発（その6）プログラム開発段階におけるエンパワメント評価活用の可能性」日本評価学会第15回全国大会.
- ・大山早紀子, 2015.「デイケア&訪問支援統合化プログラムにおける実践家参画型開発評価の成果と課題」第32回日本ソーシャルワーク学会.

## 3. その他の活動（所属学会など）

- ・日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本評価学会

## 4. 参考文献

- ・Hoge,M.A.,Davidson,L.,Hill,W.L.et al.1992. The promise of Partial Hospitalization-A Reassessment-「Hospital and Community Psychiatry43.
- ・厚生労働省社会・援護局.2009.「第18回今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会 精神科デイ・ケア等について」.
- ・窪田彰.2010.「精神科地域ケアにおけるデイケア活動.精神科診療所デイケアの立場から」安西信雄編著『地域ケア時代の精神科デイケア実践ガイド』金剛出版:159-180.
- ・National Collaborating Centre for Mental Health,Schizophrenia-Full National Clinical Guideline on Core Interventions in Primary and Secondary Care.2003.「Royal College of Psychiatrists and British Psychological Society.」
- ・National Institute for Clinical Excellence,Depression -Management of Depression in Primary and Secondary care. 2004.「National Institute for Clinical Excellence.」
- ・辻貴司.2009.「精神科デイケアと作業療法－その役割と効果－」.作業療法ジャーナル 43.